

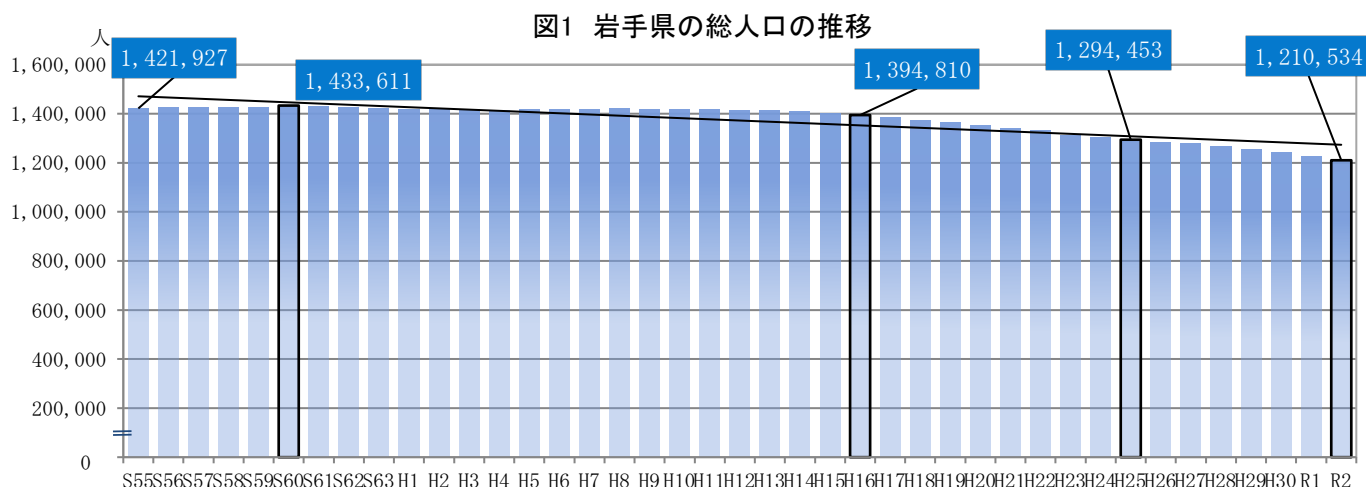
人口動態統計等から見る岩手県の状況

※このホームページで用いているデータは、人口動態統計等から得られた数値及びその数値を基に必要な計算を行い算出しています。従って、計算を行うための基となるデータが得られない等の理由で提供データの開始年次に差が生じています。

I 人口の推移

1 総人口の推移

岩手県の人口は、昭和55年の1,421,927人から昭和60年にかけて増加していましたが、昭和61年から平成元年にかけて減少しています。平成2年から横ばいまたは微増していましたが、平成14年から減少に転じ平成16年に140万人を下回り、およそ10年後の平成25年には130万人を下回りました。令和2年は1,210,534人と約40年でおよそ21万人減少しています(図1)。

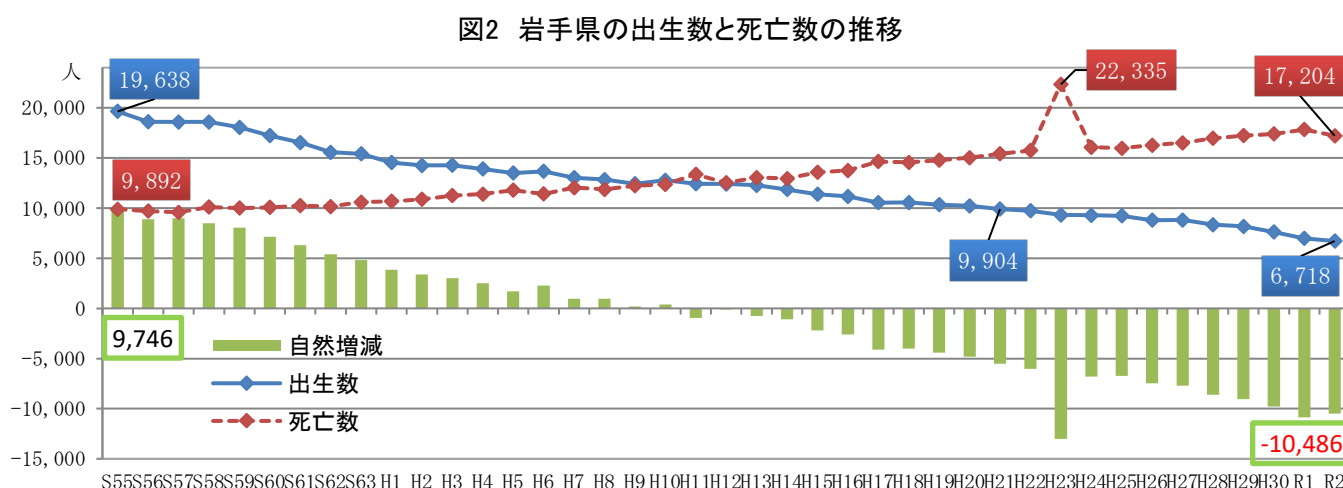


人口減少の大きな要因に、出生数と死亡数の変化を挙げることができます(図2)。

岩手県の1年当たりの出生数は、昭和55年には19,638人でしたが、平成21年に1万人を下回り、令和2年は6,718人と約40年でおよそ1万2千人減少しています。

一方、死亡数は、昭和55年の9,892人からほぼ毎年増加を続け、令和2年には17,204人となっています。平成23年は、東日本大震災津波による不慮の事故の死亡数が増え、22,335人と多くの方が亡くなっています。

出生数から死亡数を差し引いた自然増加数は、平成11年にマイナスに転じ、その差は年々開いています。令和2年の自然増加数は、10,486人減でした。



2 人口構成の推移

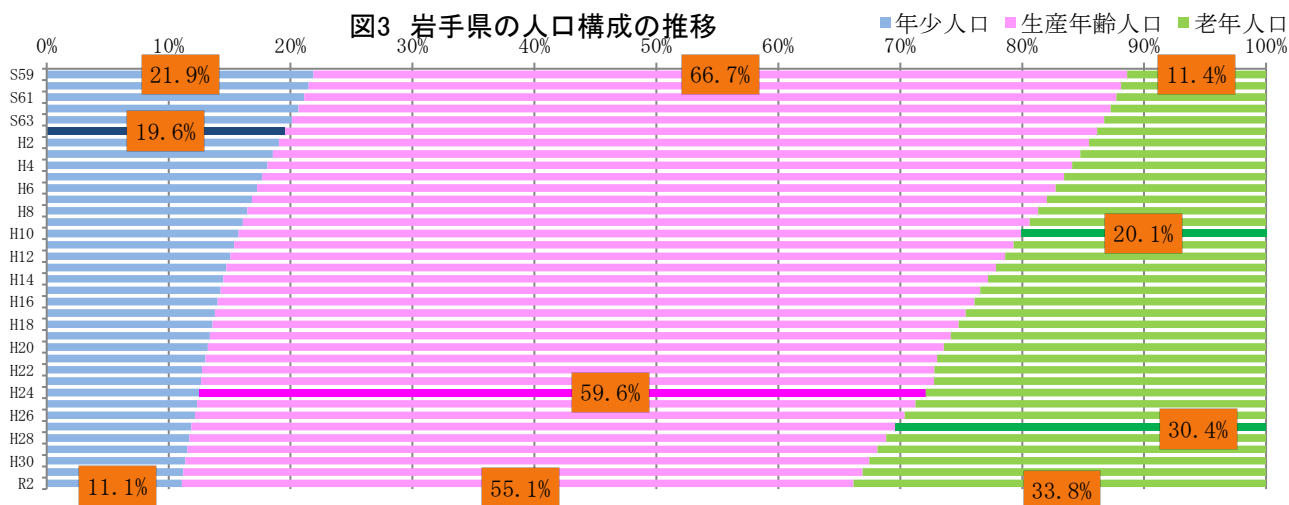
人口は、大きく「年少人口(0～14歳)」、「生産年齢人口(15～64歳)」、「老年人口(65歳以上)」に区分されます。岩手県の総人口に占める各区分の割合を昭和59年と令和2年で比較すると、以下のような変化が見られます(図3)。

昭和59年(同年全国)→令和2年(同年全国) 差(全国)

●「年少人口(0～14歳)」割合	21.9%(22.0%)	11.1%(12.0%)	- 10.8%(-10.0%)
●「生産年齢人口(15～64歳)」割合	66.7%(68.0%)	55.1%(59.0%)	- 11.6%(- 9.0%)
●「老年人口(65歳以上)」割合	11.4%(10.0%)	33.8%(29.0%)	+ 22.4%(+19.0%)

令和2年の全国割合との比較では、「年少人口(0～14歳)」は全国値12.0%に対し本県は11.1%と0.9%低く、「生産年齢人口(15～64歳)」で全国値59.0%に対し55.1%と3.9%低く、「老年人口(65歳以上)」では全国値29.0%に対し本県は33.8%と4.8%高い状況となっています。

また、老年人口割合は平成27年に30.4%となり30%を超え、高齢化が進んでいます。



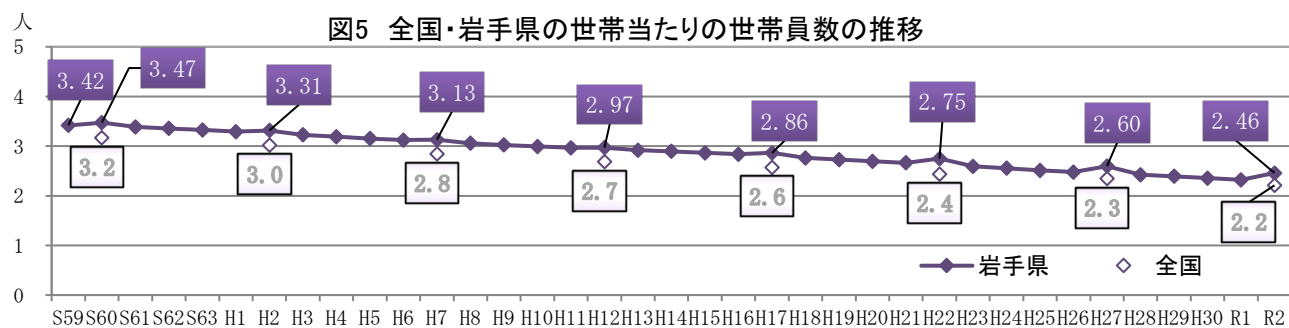
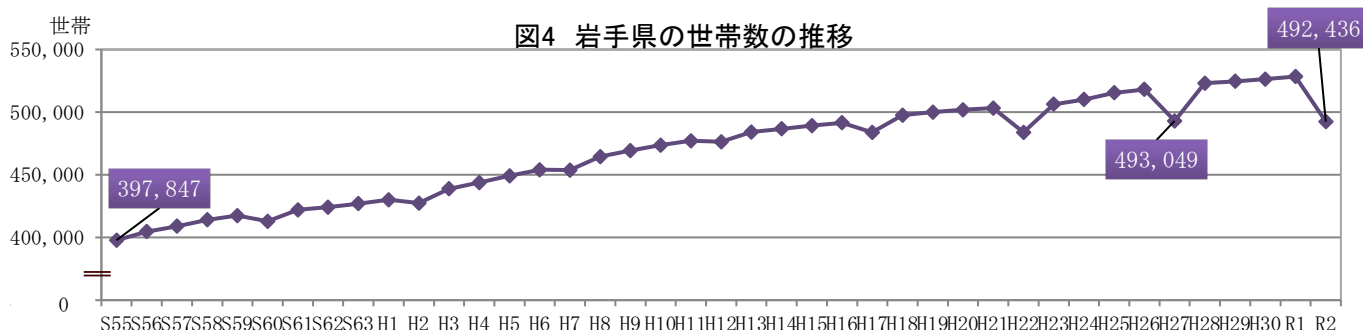
3 世帯数及び世帯当たりの世帯員数の推移

岩手県の総人口は減少していますが、世帯数は昭和55年の397,847世帯から令和2年には492,436世帯と、約40年で約9万世帯増加しています(図4)。

総人口を世帯数で割った世帯当たりの世帯員数は、昭和59年3.42人から令和2年2.46人と減少していますが、いずれの年次も全国よりは僅かに高い状況となっています(図5)。

なお、本県の世帯数は、国勢調査年は国勢調査による数値、それ以外は住民基本台帳による数値となっています(図5)。

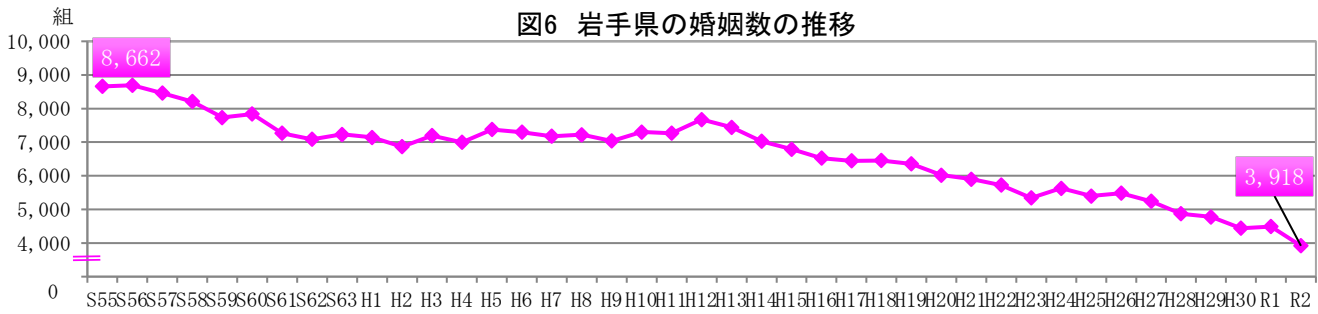
※全国は、国勢調査年(5年毎)のみ世帯数を公表しています。



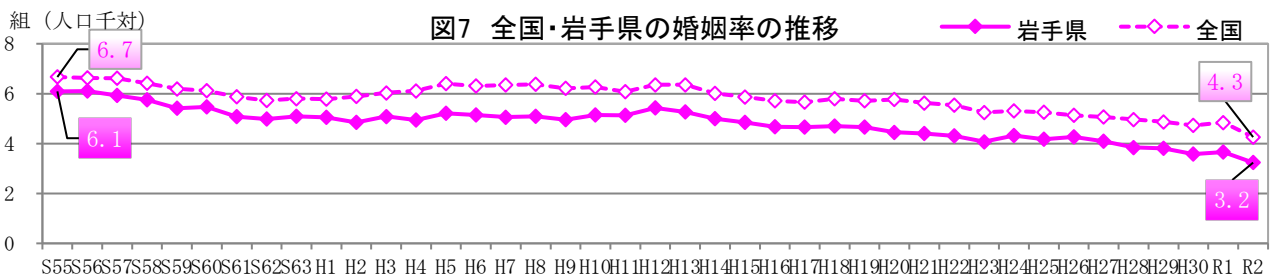
II 婚姻及び離婚の推移

1 婚姻の推移

出生は婚姻等との関連が大きいところですが、岩手県の婚姻数は、昭和55年の8,662組から令和2年には3,918組と、約40年で約4千組の減少となっています(図6)。

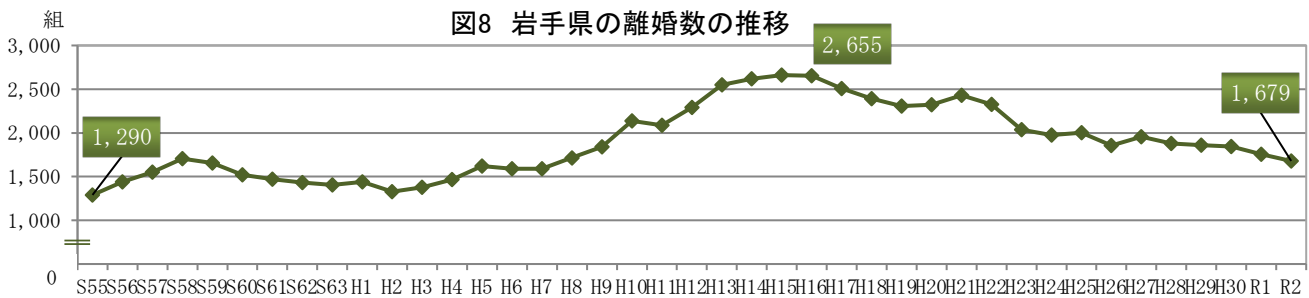


岩手県の人口千人当たりの婚姻率も低下しており、昭和55年の6.1から令和2年は3.2でした。いずれの年次も全国の婚姻率を下回っております(図7)。

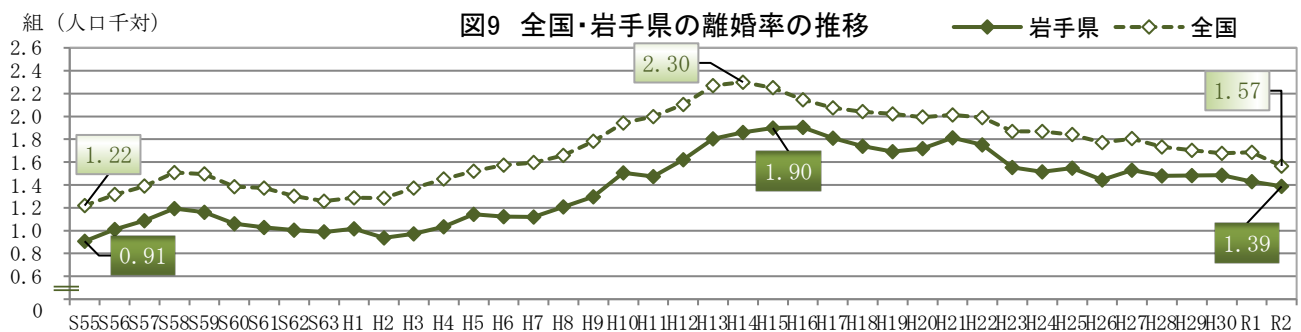


2 離婚の推移

一方、岩手県の離婚数は昭和55年の1,290組から年々増加し、平成16年の2,655組が近年のピークとなっています。その後徐々に減少し、平成23年からは2千組前後で推移していましたが、平成26年以降は2千組を下回り、令和2年は1,679組でした(図8)。



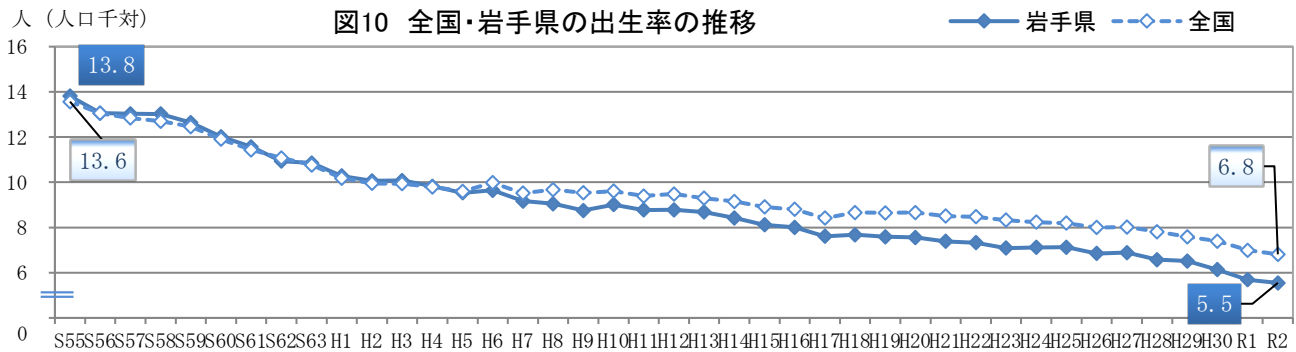
人口千人当たりの離婚率も昭和55年の0.91から年々増加し、平成15年及び16年に1.90と近年のピークとなっています。その後長期的に低下傾向となり、令和2年は1.39となっています。いずれの年次も全国の離婚率を下回っている状況です(図9)。



Ⅲ 出生、周産期死亡、死産、乳児死亡等の推移

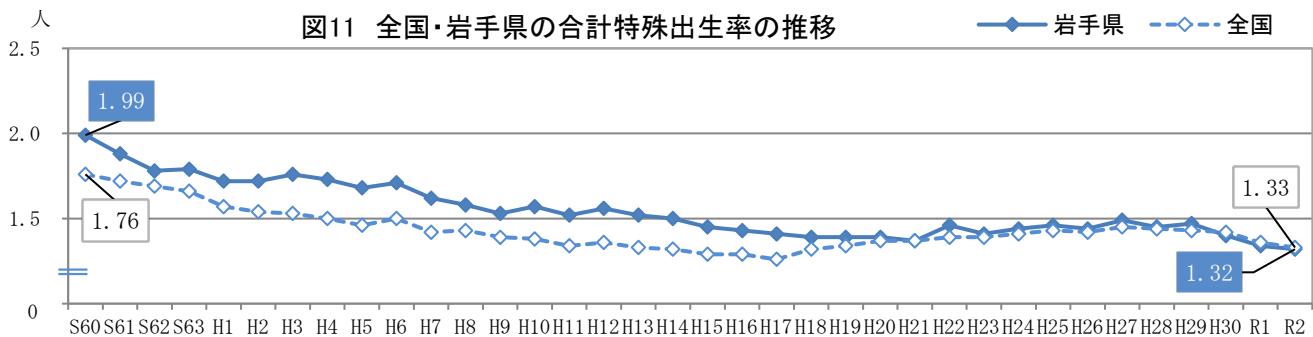
1 出生率の推移

岩手県の出生数が大きく減少していることは前述のとおりです(図2)が、人口千人当たりの出生率も、昭和55年の13.8から令和2年は5.5と大きく低下しています。全国と比べると、昭和55年から平成5年頃まではほぼ同程度で推移していましたが、その後は全国より低い状況が続いており、令和2年は全国より1.3低い状況でした(図10)。



2 合計特殊出生率の推移

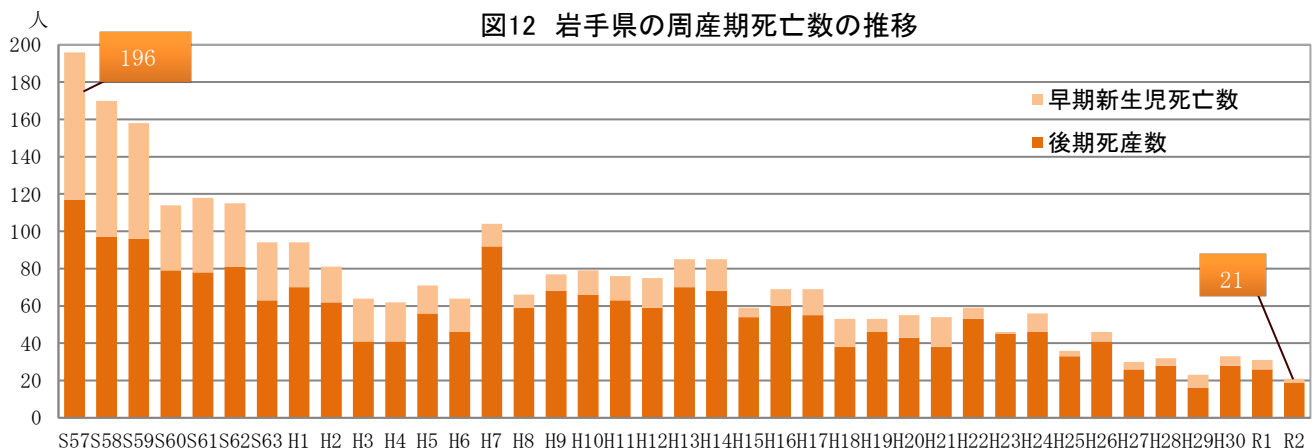
一人の女性が一生に産む子どもの数を表す指標として、合計特殊出生率が用いられます。岩手県の合計特殊出生率は、昭和60年の1.99から平成21年にかけて低下傾向にありましたが、平成22年以降は僅かに上昇しています。全国と比較すると、昭和60年から平成18年までは全国より高く推移していましたが、平成19年以降は全国に近い出生率となっています(図11)。令和2年は前年より低下し、1.32となり全国値を下回りました。



3 周産期死亡数の推移

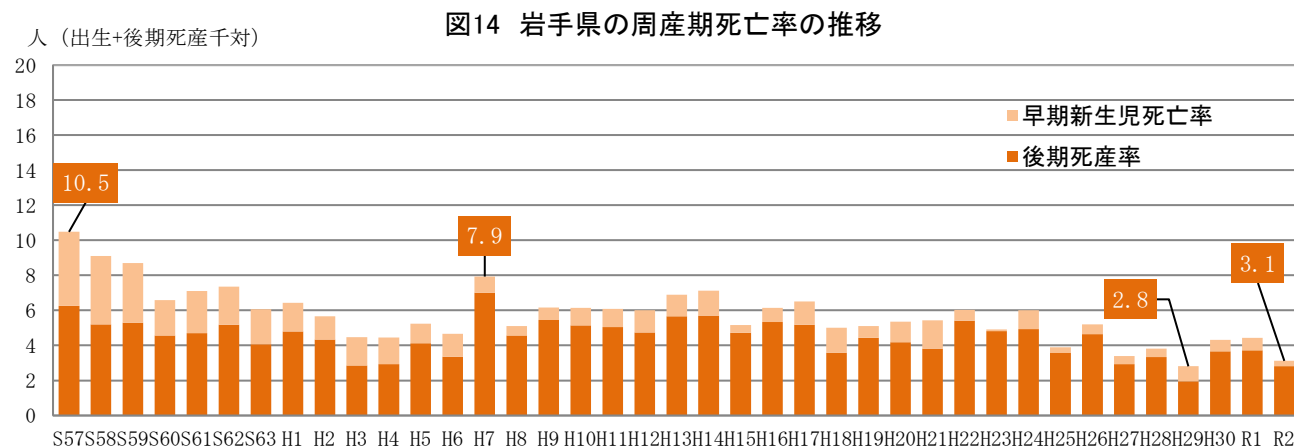
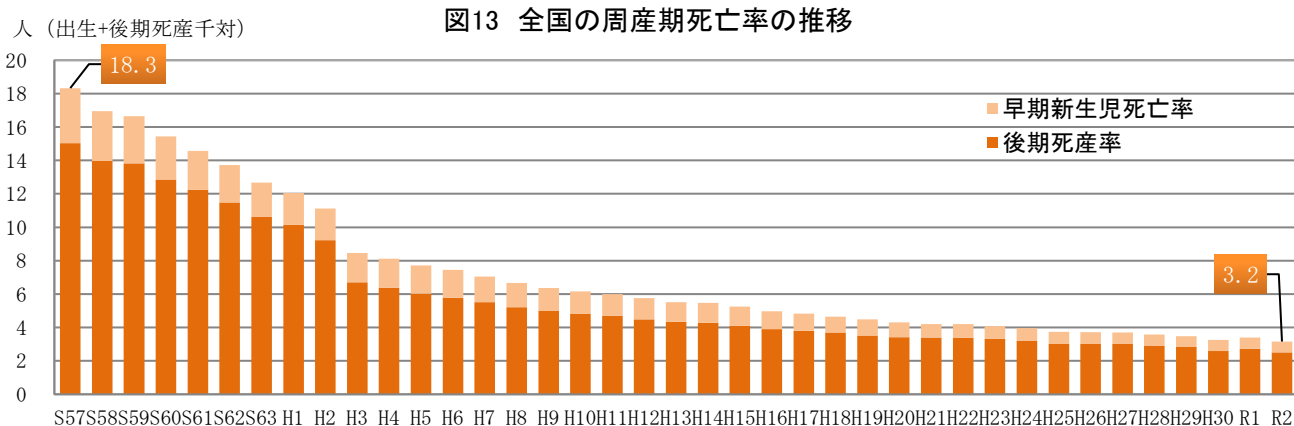
妊娠満22週以降の死産(以下、「後期死産」とします。)及び出生後満7日未満の死亡(以下、「早期新生児死亡」とします。)を周産期死亡と言います。

岩手県の周産期死亡数は、昭和57年の196人から比較すると、近年は多少の増減があるものの減少傾向にあり、令和2年は21人でした(図12)。内訳として、後期死産が多くを占めています。



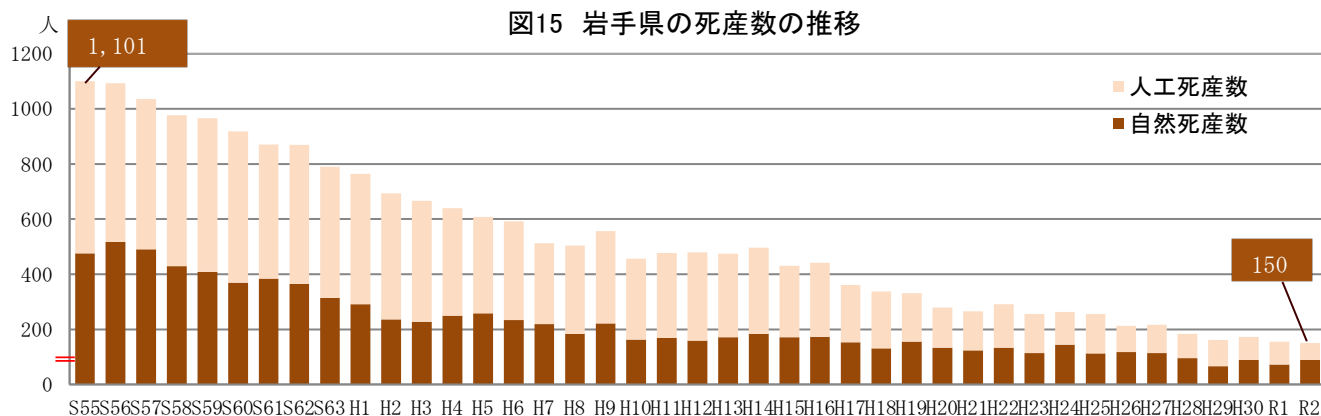
4 周産期死亡率の推移

出生及び後期死産千人当たりの後期死産率、早期新生児死亡率、それらの合計である周産期死亡率を算出しました。全国の周産期死亡率をみると、昭和57年から平成2年にかけて大きく低下し、平成3年からは緩やかに低下しています。令和2年は3.2と昭和57年から大きく低下しています(図13)。
 岩手県の周産期死亡率は、昭和57年から平成6年まで低下していましたが、平成7年に7.9と前年より3.2上昇し、以降5.0を超えて推移していました。令和2年は3.1となり、昭和57年以降最も低い値となった平成29年を0.3上回っています(図14)。



5 死産数の推移

岩手県の死産数は、昭和55年の1,101人から減少傾向にあり、令和2年には150人とおよそ七分の一まで減少しています(図15)。死産の内訳は、人工死産が半分以上を占めている年次が多いですが、自然死産数に比較して減少傾向にあります。

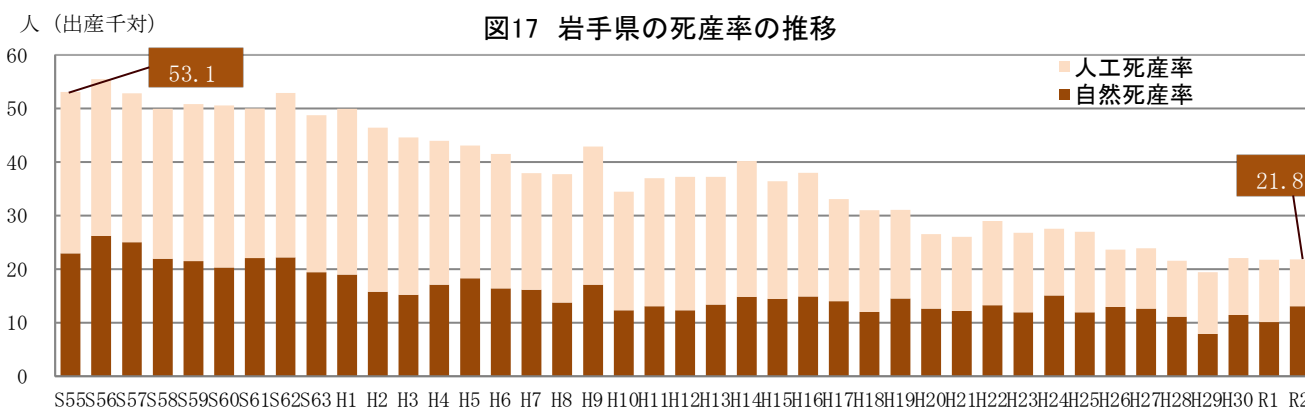
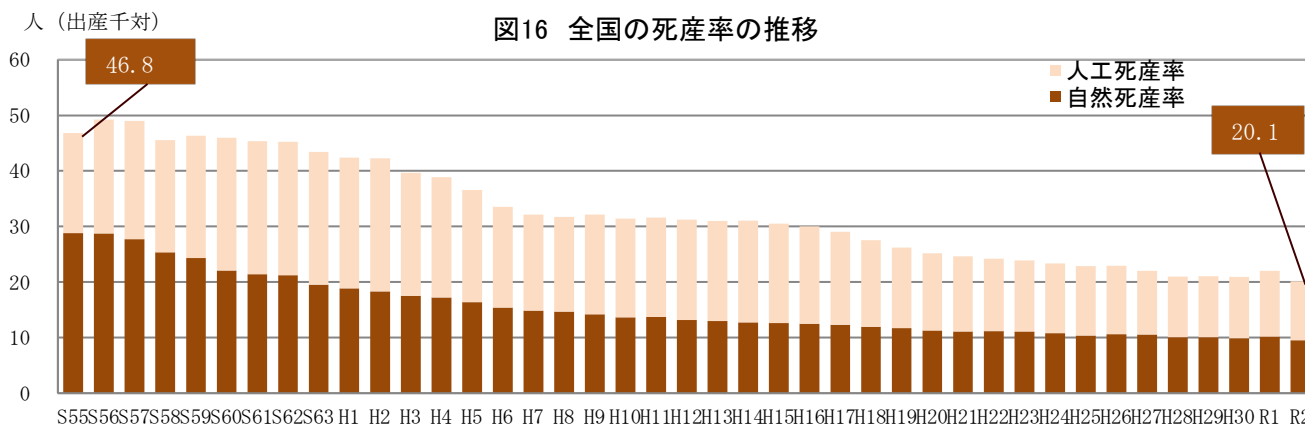


6 死産率の推移

出産千人当たりの自然死産率、人工死産率、それらの合計である死産率を算出しました。

全国の死産率は、昭和55年から平成6年、平成7年から16年、平成17年以降と大きく3段階で低下しています(図16)。

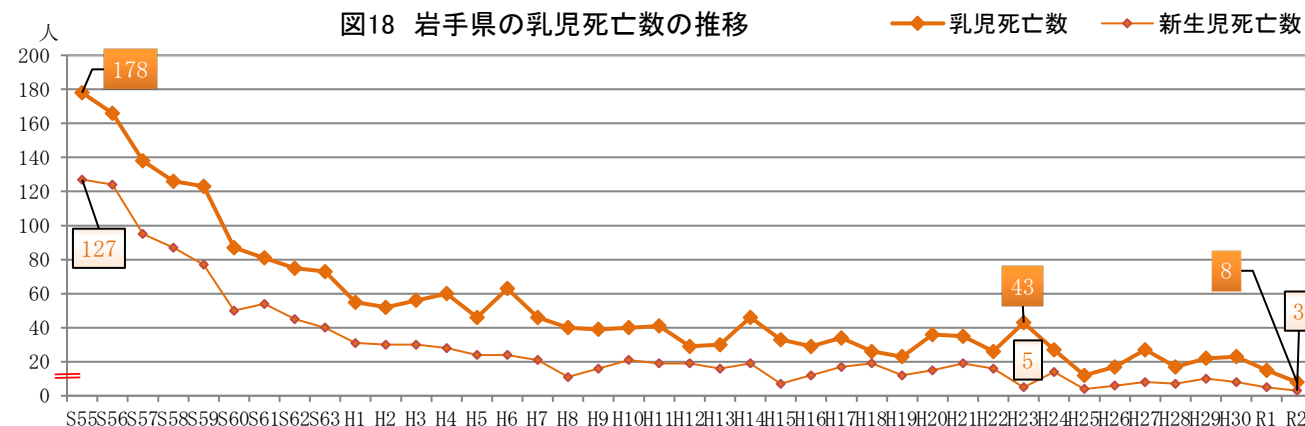
岩手県も昭和55年から低下傾向ではありますが、総じて全国より高い状況です。また、内訳では、人工死産率は昭和55年から低下傾向にあります。自然死産率も昭和55年から平成8年にかけて低下傾向にありましたが、平成10年以降は11.0～15.0で推移しており、概ね横ばい傾向にあります(図17)。



7 乳児死亡数の推移

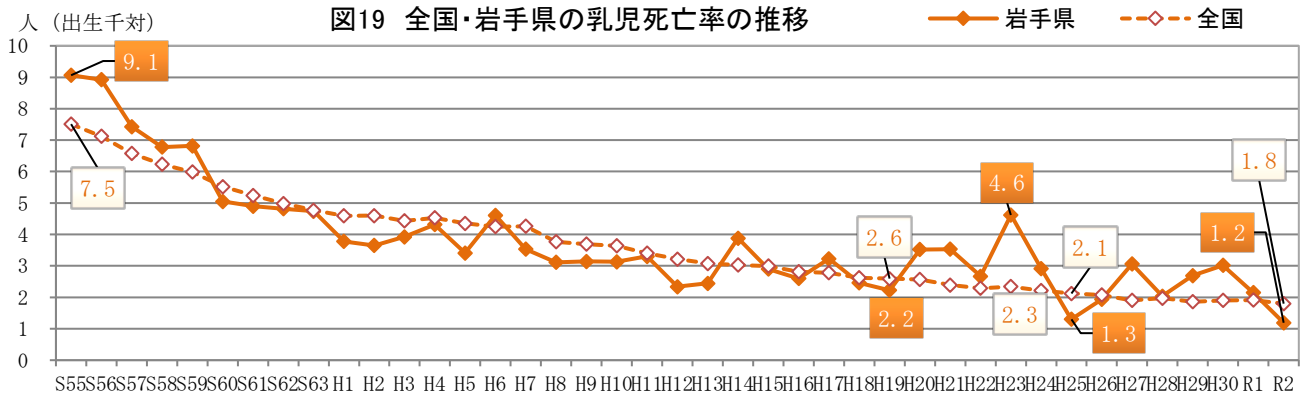
岩手県の乳児死亡数は、昭和55年の178人から減少傾向にあり、令和2年は8人と最も少ない死亡数となりました(図18)。なお、平成23年は43人と一時的に増加していますが、東日本大震災津波の影響を考慮する必要があります。

乳児死亡のうち、生後4週間未満(新生児)の死亡数も昭和55年の127人から大きく減少し、令和2年には3人となっています。



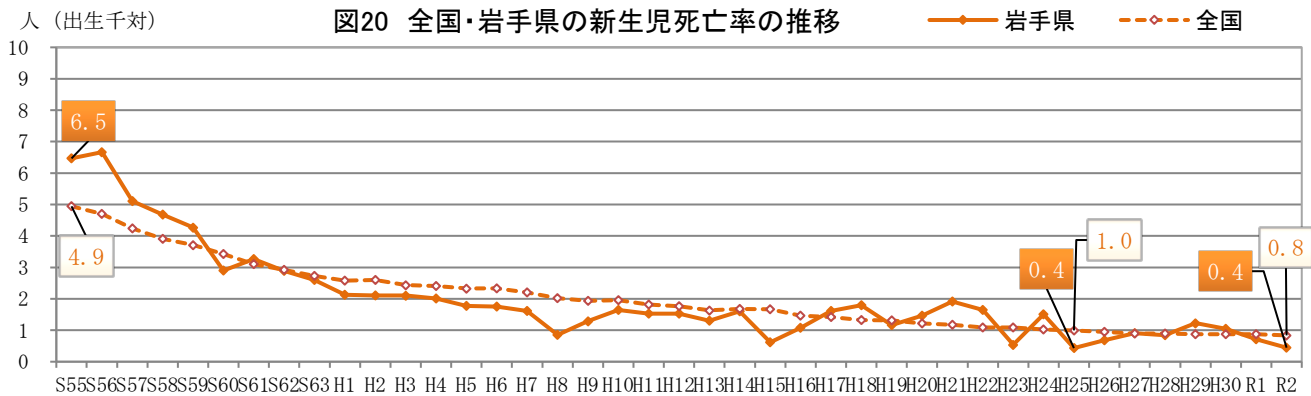
8 乳児死亡率の推移

岩手県の出生千人当たりの乳児死亡率は、昭和55年の9.1から平成19年まで増減を繰り返しながら低下傾向にありました。東日本大震災津波が発生した平成23年には4.6と高くなりましたが、平成25年は1.3と最も低く、全国を下回りました。令和2年は1.2と全国より低く推移しています(図19)。



9 新生児死亡率の推移

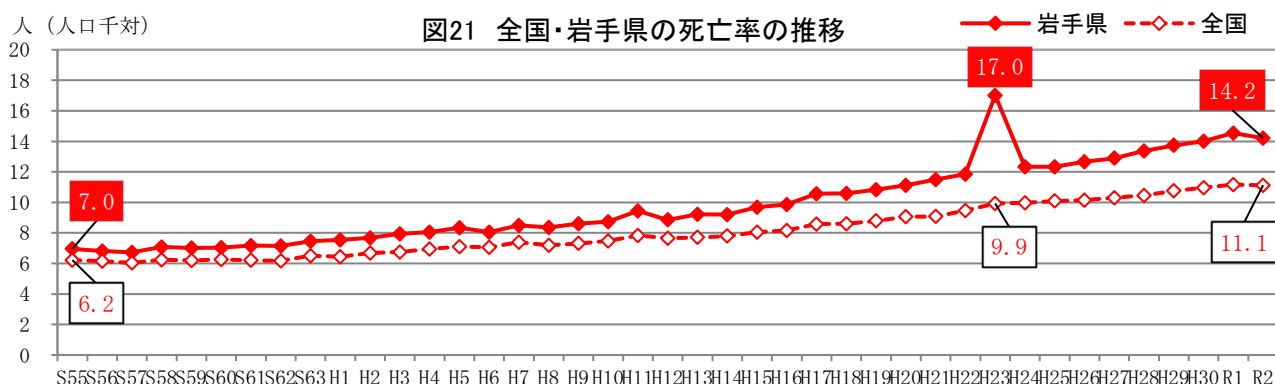
岩手県の出生千人当たりの新生児死亡率は、昭和55年の6.5から低下傾向にあり、平成25年は0.4と最も低くなりました。全国と比較すると、岩手県は昭和55年から昭和59年は全国より高い死亡率でしたが、昭和62年から平成16年まで全国より低く推移していました。平成17年以降全国より高い年次が多くありましたが、平成25年以降は全国より低いか同程度となっていました。令和2年は、0.4と全国より低く推移しています(図20)。



IV 死亡の推移

1 死亡率の推移

岩手県の死亡数が大きく増加していることは前述のとおりです(図2)が、人口千人当たりの死亡率も、昭和55年の7.0から令和2年は14.2と上昇しています。平成23年は17.0となっていますが、これは東日本大震災津波が大きく影響しています。岩手県は、全国より高い死亡率で推移していますが、近年その差が広がっています(図21)。



2 全国・岩手県の年齢調整死亡率の推移

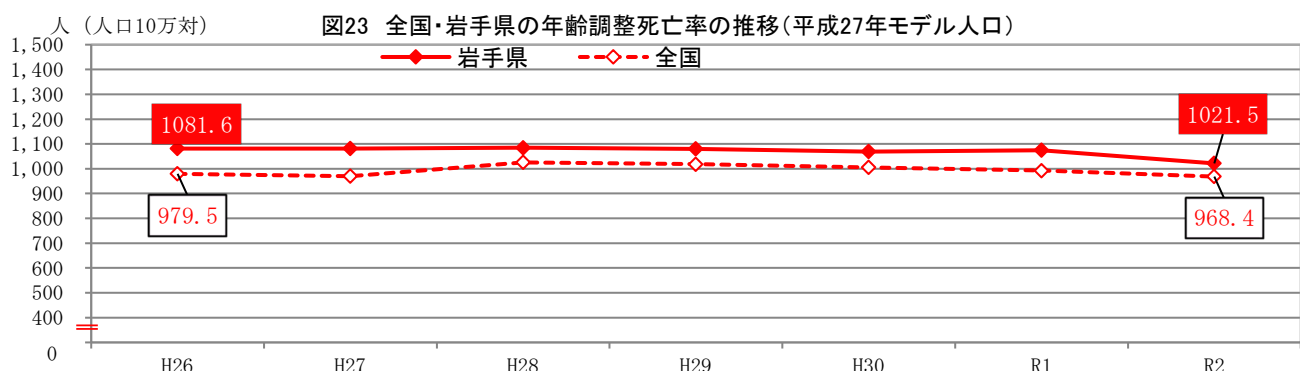
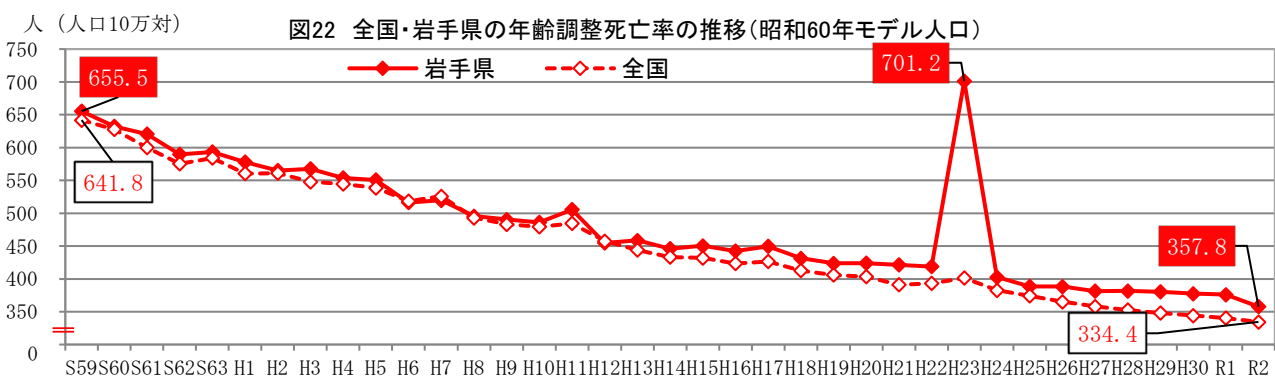
(図22)の人口10万人当たりの年齢調整死亡率※(昭和60年モデル人口)で見ると、岩手県は昭和59年の655.5から令和2年には357.8と死亡率は低下しています。ただし、平成23年は東日本大震災津波の影響により701.2と大きく上昇しています。

なお、(図22)(図23)を見ると、岩手県は全国より高い状況で推移しています。

※年齢調整死亡率:年齢構成の異なる地域間で死亡の状況を比較できるように年齢構成を調整した死亡率が年齢調整死亡率(人口10万人当たり)です。年齢調整死亡率は、従来昭和60年モデル人口(国勢調査人口を基に補正した人口)を使用した数値を掲載していましたが、令和4年2月25日に厚生労働省が「年齢調整死亡率の基準人口について」を改訂し、新たに平成27年モデル人口(国勢調査人口を基に補正した人口)を使用することとなりました。この基準人口改訂は、近年の高齢化による人口構成の変化を反映したものとなっています。

なお、県や市町村の健康増進計画等で使用している年齢調整死亡率は、昭和60年モデル人口を使用した数値を用いており、継続した経年比較や傾向把握が必要であることから、従来に引き続き昭和60年モデル人口を使用した数値を掲載しています。また、新たな県の健康増進計画との比較を考慮し、現行計画の期間(平成26年～令和5年)分について、平成27年モデル人口を使用した数値も掲載しています。

全国の年齢調整死亡率は、厚生労働省人口動態調査をもとに岩手県環境保健研究センターで算出、岩手県の年齢調整死亡率は、岩手県保健福祉年報をもとに岩手県環境保健研究センターで算出しています。

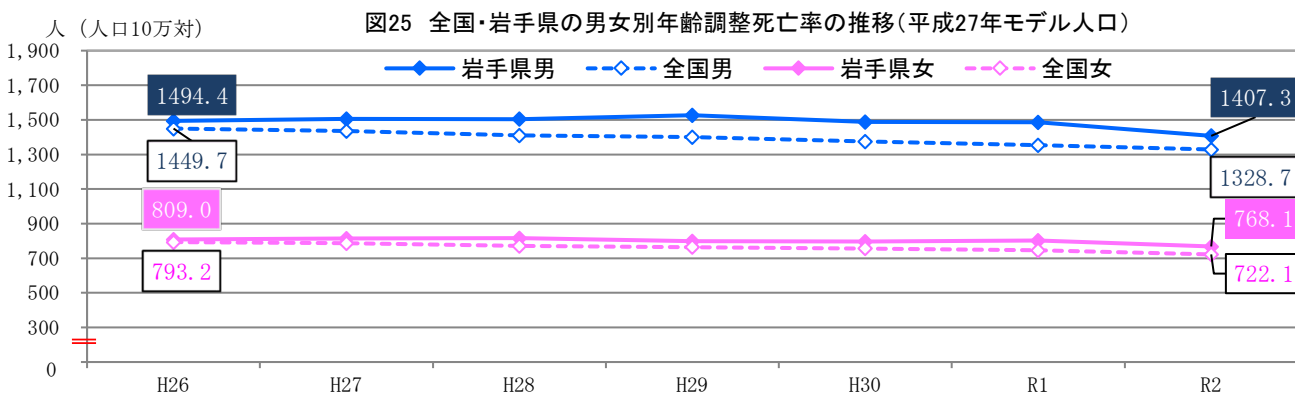
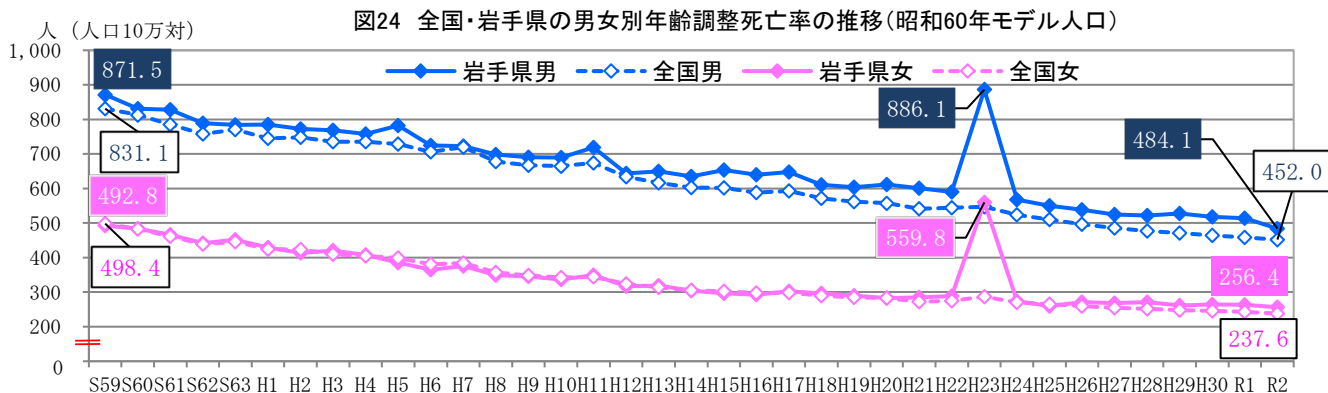


3 男女別年齢調整死亡率の推移

年齢調整死亡率は、男女で大きく異なることから、男女別で(図24)(図25)に示します。

(図24)を見ると、岩手県の男性は、昭和59年の871.5から令和2年は484.1にまで低下しました。平成23年は、東日本大震災津波の影響により886.1と大きく上昇しています。岩手県の女性は、昭和59年の492.8から令和2年は256.4にまで低下しており、全国とほぼ同程度で推移していることがわかります。平成23年は東日本大震災津波の影響により559.8になっています。

なお、(図24)(図25)を見ると、岩手県は全国より高い状況で推移しています。男性は女性の約2倍前後の値で推移し、男性の死亡率が高い状況です。



4 年齢調整死亡率の死因別順位

死因別の年齢調整死亡率について、全国・岩手県の男女別にその値を求め、死因毎に値の高い順に5位までを下表に示しています。

区分(昭和60年モデル人口)			第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
令和2年	男性	全国	死因: 悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	自殺
		年齢調整死亡率	147.6	61.8	32.0	22.1	20.1
	岩手県	死因: 悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	自殺	不慮の事故	
		年齢調整死亡率	153.9	67.7	51.0	25.1	21.1
女性	全国	死因: 悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老衰	自殺	
		年齢調整死亡率	82.6	29.6	17.3	17.1	9.4
	岩手県	死因: 悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	老衰	自殺	
		年齢調整死亡率	92.2	33.2	25.7	17.3	11.3

区分(平成27年モデル人口)			第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
令和2年	男性	全国	死因: 悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
		年齢調整死亡率	394.7	190.1	93.8	90.1	82.7
	岩手県	死因: 悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰	
		年齢調整死亡率	411.6	213.0	147.2	85.0	82.8
女性	全国	死因: 悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎	
		年齢調整死亡率	196.4	109.2	85.8	56.4	33.4
	岩手県	死因: 悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎	
		年齢調整死亡率	214.4	121.6	88.1	84.3	29.6

<参考>令和2年死因別死亡数順位

全国・岩手県の男女別に死因毎の死亡数の多い順から5位までを示しています。

岩手県と全国で比較すると、男性は第1位「悪性新生物」から第5位「老衰」まで同じ順位となっており、女性も第1位「悪性新生物」から第5位「肺炎」まで同じ順位となっています。

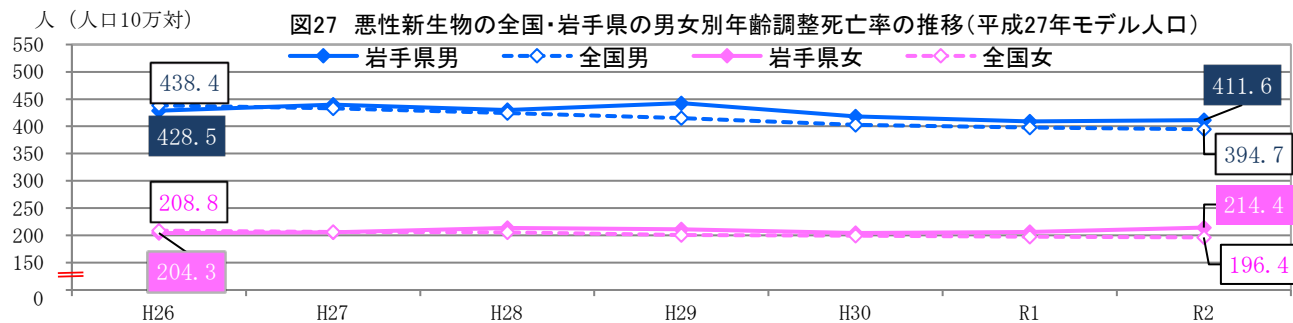
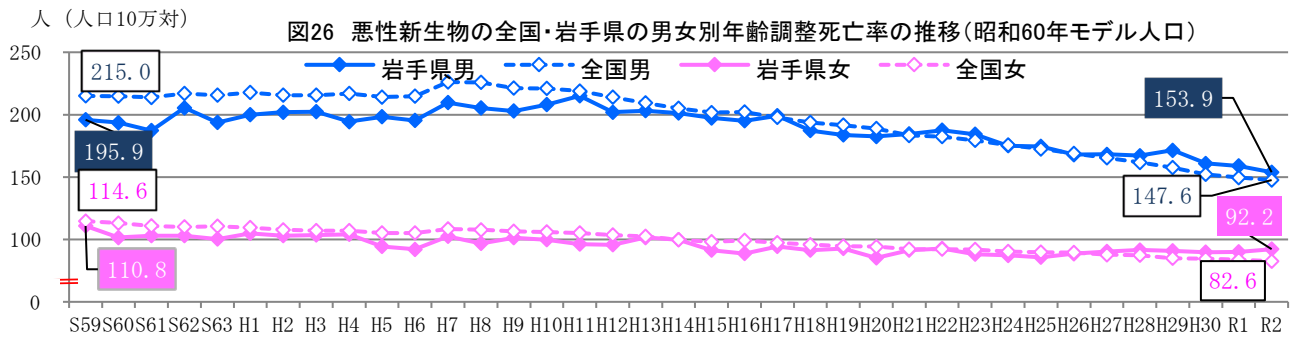
区分		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
令和2年	男性	全国	死因 悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
		死亡数	220,989	99,304	50,390	44,902	35,779
	岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	老衰
		死亡数	2,562	1,254	889	487	428
	女性	全国	死因 悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎
		死亡数	157,396	106,292	96,661	52,588	33,548
岩手県	死因	悪性新生物	心疾患	老衰	脳血管疾患	肺炎	
	死亡数	2,019	1,477	1,312	987	381	

5 悪性新生物の全国・岩手県の男女別年齢調整死亡率の推移

「悪性新生物」について、全国・岩手県の男女別の年齢調整死亡率の推移を(図26)(図27)に示します。

(図26)を見ると、岩手県男性は、昭和59年の195.9から緩やかな低下傾向にあり、令和2年は153.9となりました。以前は全国より低く推移していましたが、平成13年頃から全国に近い死亡率となっています。岩手県女性も、昭和59年の110.8から緩やかな低下傾向にあり、令和2年は92.2となっています。

なお、(図26)(図27)を見ると、岩手県は男女ともに全国より高い状況で推移しています。



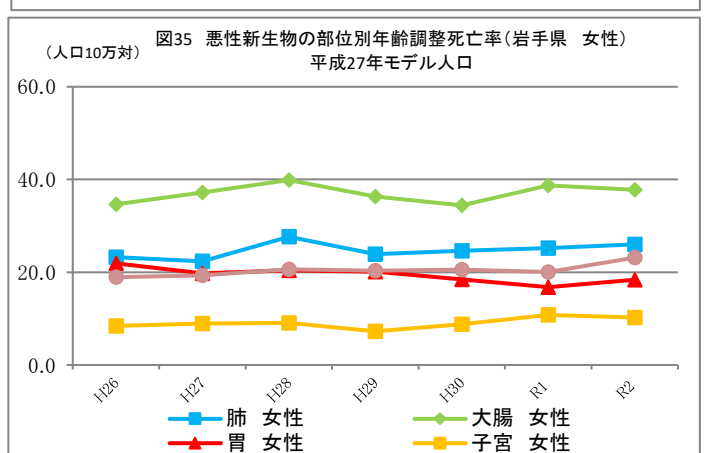
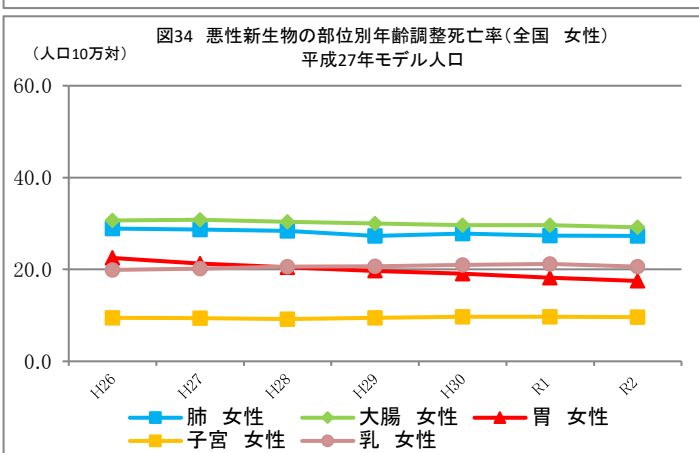
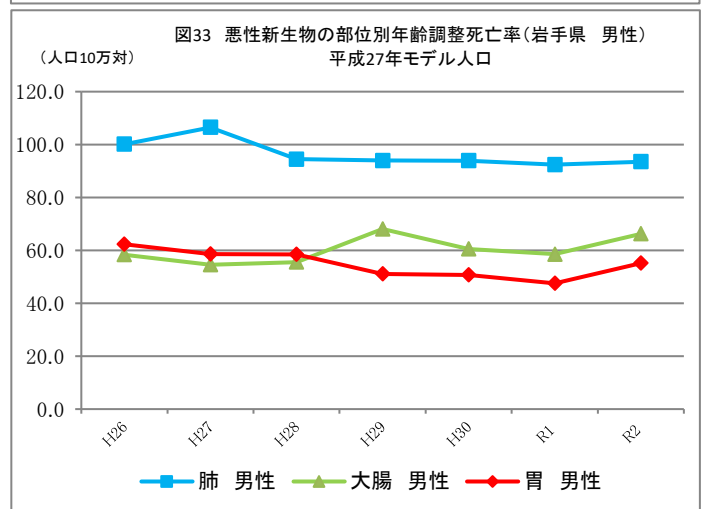
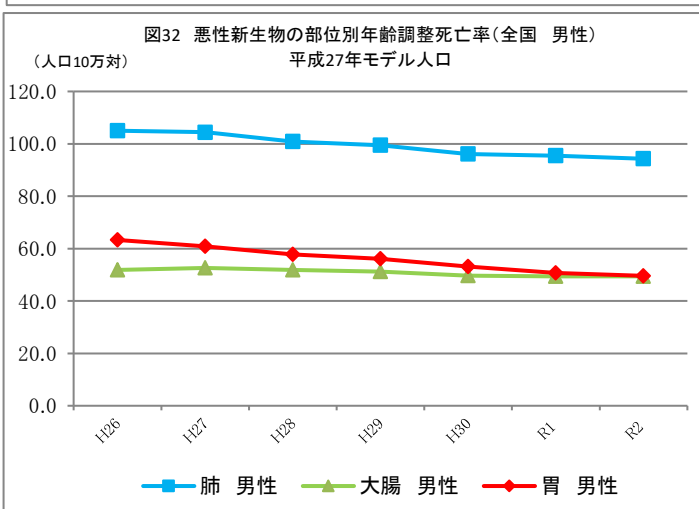
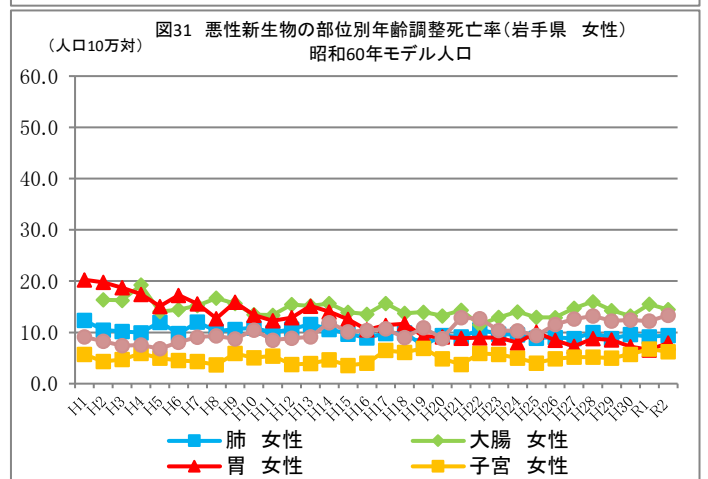
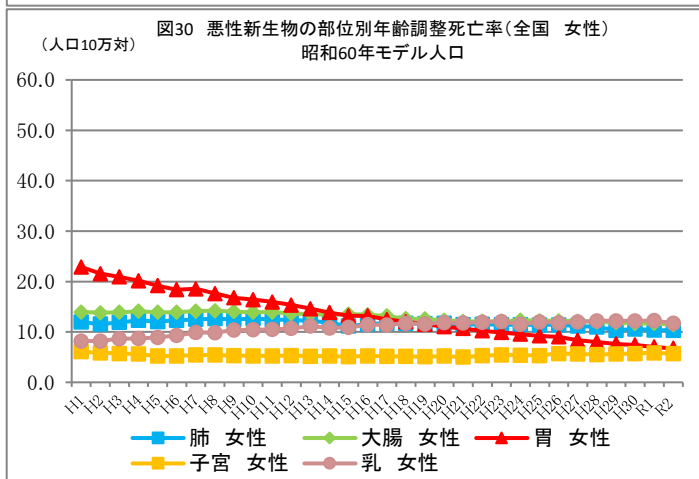
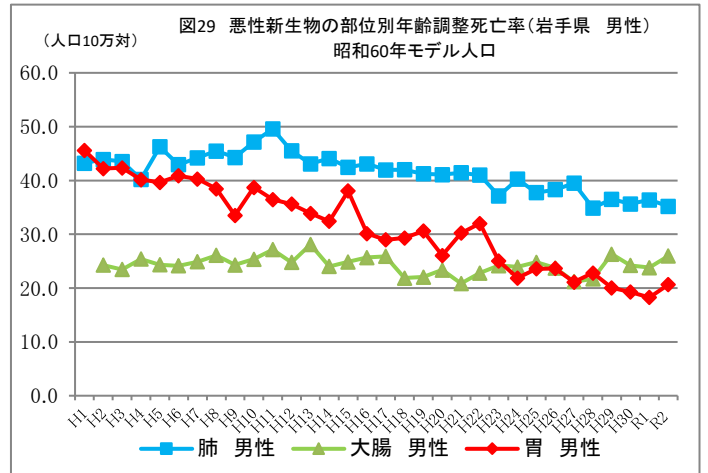
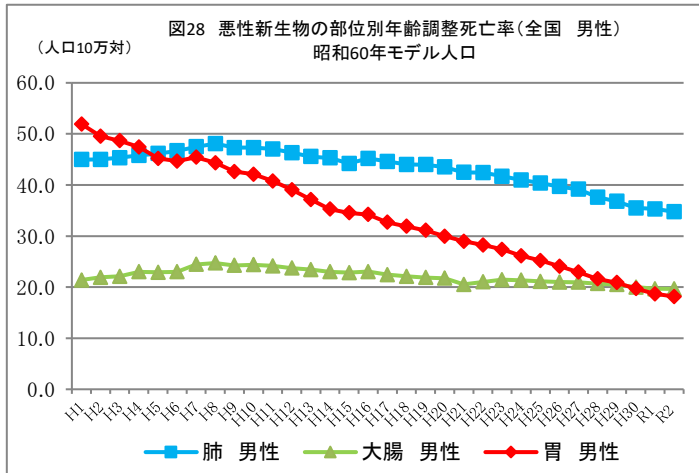
6 悪性新生物の部位別年齢調整死亡率の順位

悪性新生物の部位別年齢調整死亡率について、令和2年の全国・岩手県の男女別にその値を求め、値の高い順から3位までを下表に示しています。

区分(昭和60年モデル人口)		第1位	第2位	第3位	
男性	全国	死因	肺	大腸	胃
		年齢調整死亡率	34.8	19.7	18.2
	岩手県	死因	肺	大腸	胃
		年齢調整死亡率	35.2	26.0	20.6
女性	全国	死因	乳	大腸	肺
		年齢調整死亡率	11.7	11.5	10.3
	岩手県	死因	大腸	乳	肺
		年齢調整死亡率	14.5	13.4	9.4
区分(平成27年モデル人口)		第1位	第2位	第3位	
男性	全国	死因	肺	胃	大腸
		年齢調整死亡率	94.3	49.6	49.4
	岩手県	死因	肺	大腸	胃
		年齢調整死亡率	93.5	66.2	55.2
女性	全国	死因	大腸	肺	乳
		年齢調整死亡率	29.2	27.3	20.6
	岩手県	死因	大腸	肺	乳
		年齢調整死亡率	37.8	26.0	23.1

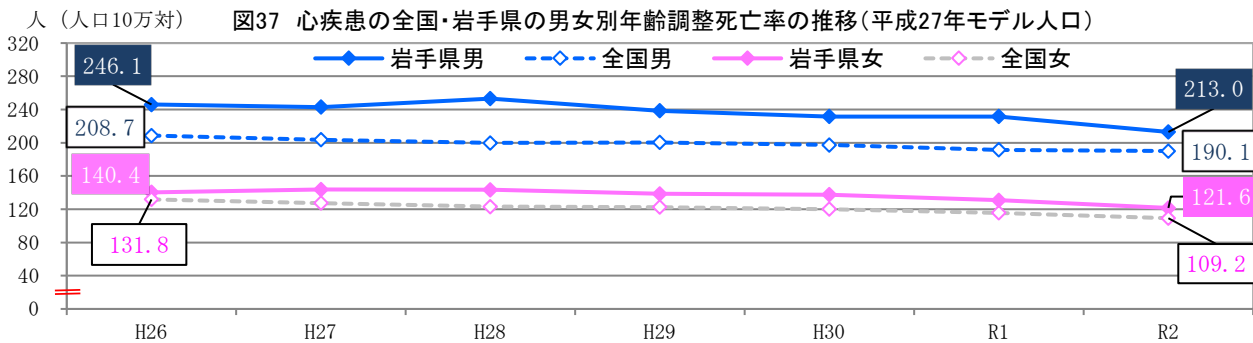
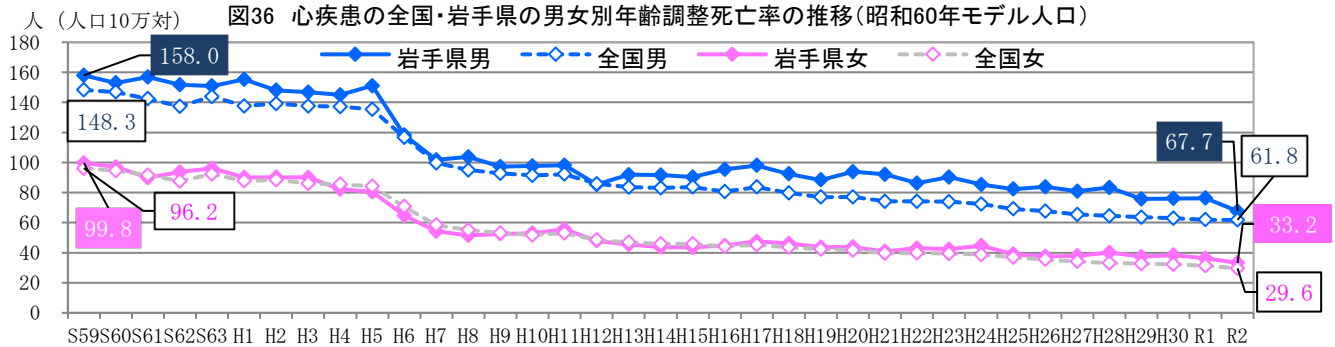
悪性新生物の部位別年齢調整死亡率を全国と岩手県を男女別に分けて、平成元年以降の傾向と経年比較を示したグラフになります。(図28～図35)

岩手県は年ごとの変動はあるものの、概ね全国と同様の傾向を示しています。



7 心疾患の全国・岩手県の男女別年齢調整死亡率の推移

「心疾患」について、全国・岩手県の男女別の年齢調整死亡率の推移を(図36)(図37)に示します。
 (図36)を見ると、全国、岩手県の男女ともに診断基準の見直し等により平成6年から7年にかけて大きく低下しています。岩手県の男性については、平成8年から横ばいから緩やかな低下傾向にあるものの、令和2年は67.7と全国より高く推移しています。女性は全国とほぼ同程度で推移していますが、令和2年は33.2と全国より高く推移しています。
 なお、(図36)(図37)を見ると、岩手県は男女ともに全国より高い状況で推移しています。

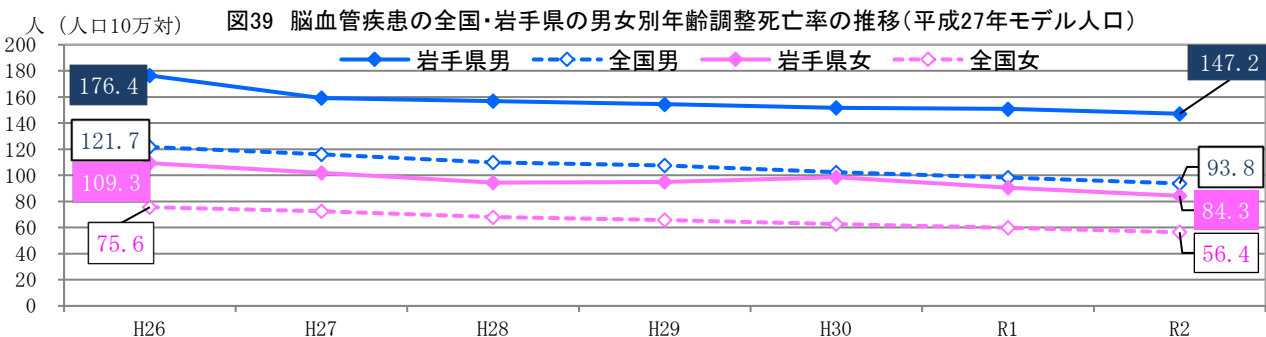
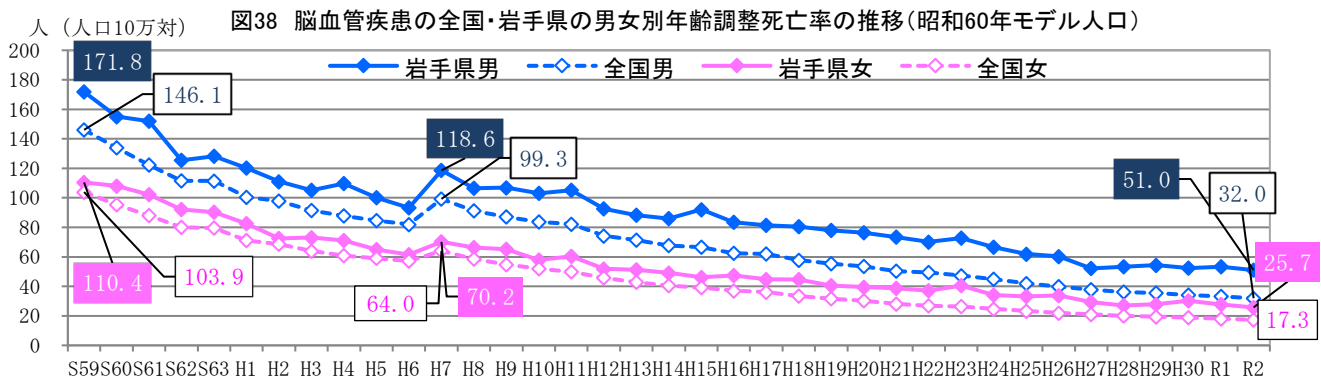


8 脳血管疾患の全国・岩手県の男女別年齢調整死亡率の推移

「脳血管疾患」について全国・岩手県の男女別の年齢調整死亡率の推移を(図38)(図39)に示します。平成7年の上昇は診断基準の見直し等によるものです。

(図38)を見ると、令和2年の岩手県の年齢調整死亡率は、男女ともに昭和59年の半分以下に大きく低下しており、男性が51.0、女性が25.7となっています。しかし、全国と比較すると男女ともにいずれの年次も岩手県が高い状況で推移していることがわかります。

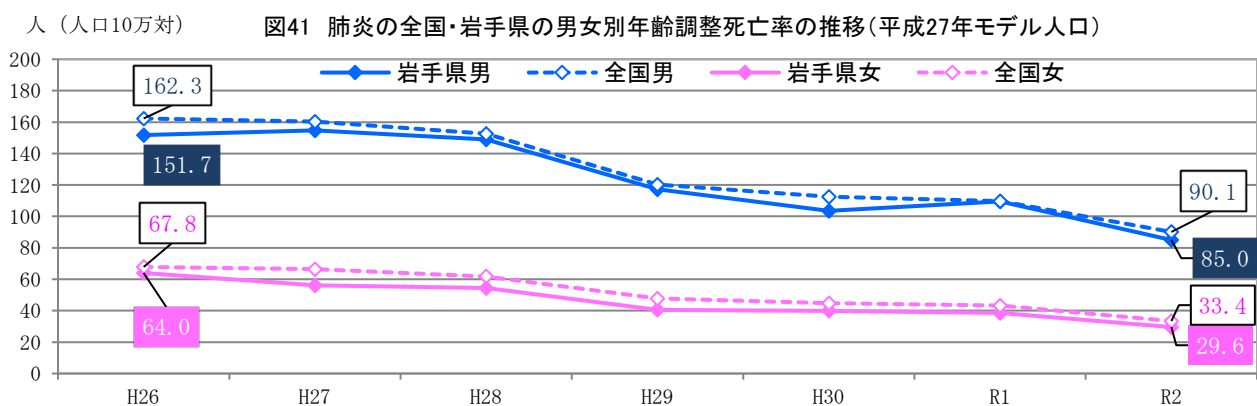
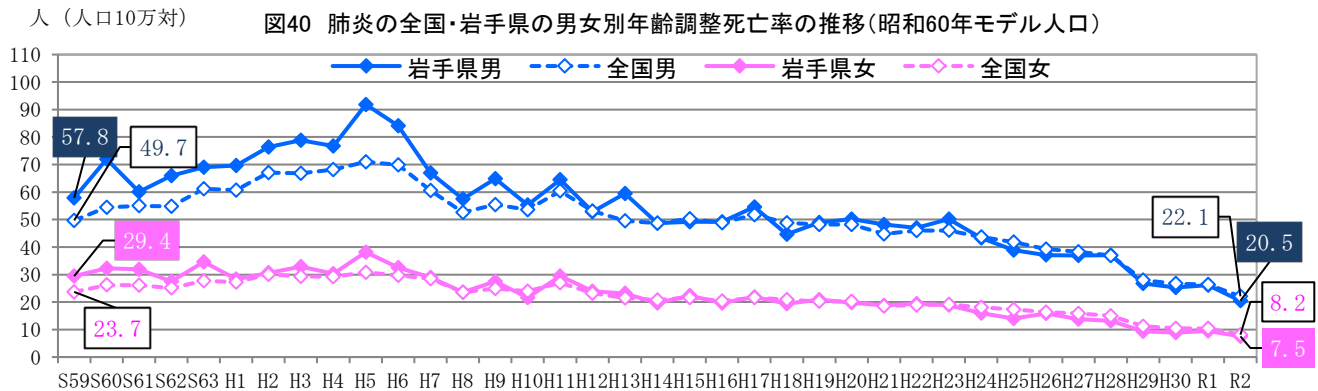
なお、(図38)(図39)を見ると、岩手県は男女ともに全国より高い状況で推移しています。



9 肺炎の全国・岩手県の男女別年齢調整死亡率の推移

「肺炎」について、全国・岩手県の男女別の年齢調整死亡率の推移を(図40)(図41)に示します。なお、平成29年から肺炎死亡率が低下しているのは、人口動態統計の中で「肺炎」から「誤嚥性肺炎」を独立して集計するようになったためです。

なお、(図40)(図41)を見ると、岩手県は男女とも全国に近い死亡率で推移しています。

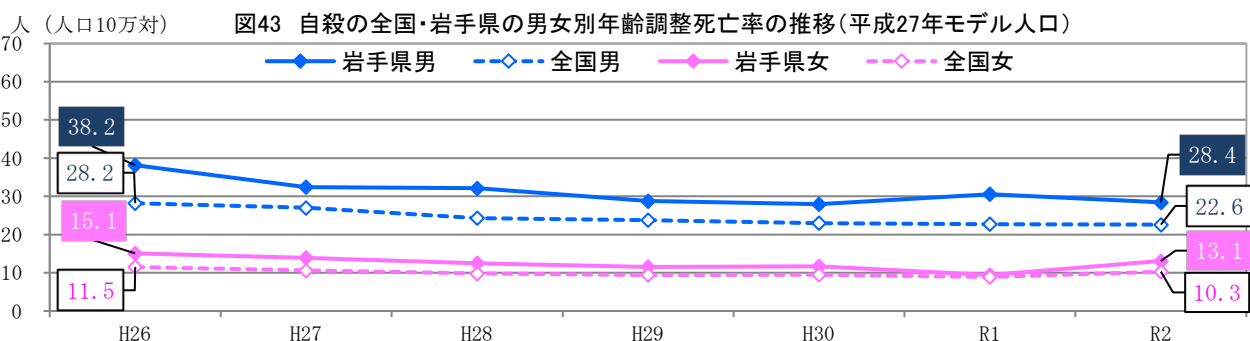
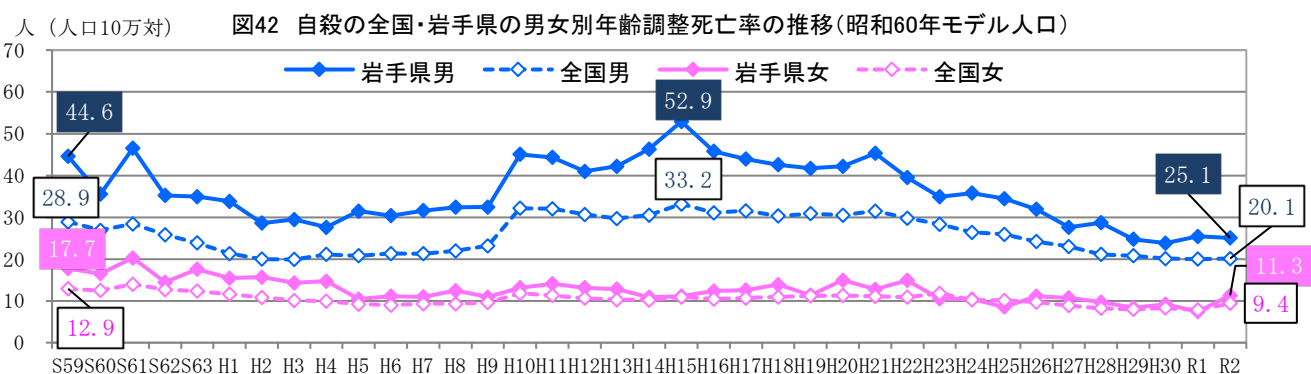


10 自殺の全国・岩手県の男女別年齢調整死亡率の推移

「自殺」について、全国・岩手県の男女別の年齢調整死亡率の推移を(図42)(図43)に示します。自殺の場合、年次変動が大きいことがわかります。

(図42)を見ると、男性は平成15年には19.7あった全国との差は緩やかながら小さくなり、率そのものも徐々に低下傾向にはあるものの、令和2年は25.1と全国より高く推移しています。女性も全国より概ね高い死亡率で推移していますが、平成5年以降はその差が小さな状況で推移しています。

なお、(図42)(図43)を見ると、岩手県は男女ともに全国より高い状況で推移しています。



11 老衰の全国・岩手県の男女別年齢調整死亡率の推移

「老衰」について、全国・岩手県の男女別の年齢調整死亡率の推移を(図44)(図45)に示します。
 (図44)(図45)を見ると、男女とも全国値とは大きな差がなく経過しています。ほとんどの年で、男性より女性の方が高値となっています。また近年、他の死因の年齢調整死亡率が低下しているなか、老衰の値が上昇していることは高齢化と医療の高度化が関連していると考えられます。

